

2016年度夏版L2-Tech水準表(素案)の主な変更点

平成28年度L2-Techリスト更新拡充・認証委託業務

2016年度夏版L2-Tech水準表(素案)の主な変更点について

はじめに

エネルギー消費量を抜本的に削減する大胆な省エネを進めるため、平成26年3月「L2-Tech JAPANイニシアティブ」を発表。先導的(Leading)な低炭素技術(Low-carbon Technology) = L2-Techをリスト化し、情報発信するとともに、開発・普及を強力に推進しています。

L2-Techの現状

L2-Techは、エネルギー消費量削減・CO2排出削減のための先導的な要素技術または、それが適用された設備・機器等のうち、エネルギー起源CO2の排出削減に最大の効果をもたらすものであって、以下の構造で具体化されています。

- L2-Techリスト: 設備・機器の分類を示すリスト(年に1回更新・拡充)
- **L2-Tech水準表**: 設備・機器の最高水準(エネルギー消費効率等)を示す水準表(夏と冬の年に2回更新)
(平成27年8月 2015年夏版L2-Tech水準表、平成28年1月 2015年度冬版L2-Tech水準表を公表)
- L2-Tech認証製品一覧: CO2削減効果(エネルギー消費効率等)が最高の製品を示す認証製品の一覧(夏と冬の年に2回公表)
(平成28年3月版において、68種類の製品、個別の製品数1377を掲載)

2016年夏版L2-Tech水準表(素案)の主な変更点について

L2-Tech水準表は、夏と冬の年に2回、設備・機器の最高水準(エネルギー消費効率等)の数値等を更新しています。2016年度夏版については、業界団体等のご協力のもと、ヒアリングを実施し、2015年度冬版の水準表を基に数値の更新を行いました。

- エネルギー消費効率等の向上があった設備・機器については、水準の更新を行いました
- 業界団体等の指摘事項に変更等の対応をしました(記載内容について修正・改善等が必要な事項)

2016年冬版以降のL2-Tech水準表の方向性について

CO2の大幅な削減に資する設備・機器の情報発信を目的とした「L2-Tech水準表」と、省エネ機器の普及を目的とした「トップランナー制度」の対象設備・機器等について、業界団体等からの「混乱のないように整合を図っていくべき」との意見を踏まえ、以下のような方向性を検討しました。

- 今後に向けて検討を進めつつ、2016年度夏版では暫定措置を取って対応する
- 2016年度冬版以降については、移行期間を経て、トップランナー制度との整合を図っていく

原則としてL2-Tech水準の更新のみを行うが、記載内容において修正・改善等が必要な場合は、クラス・指標等を変更する

L2-Tech水準表の作成における個別対応事項一覧(1/4)

対応方針		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 原則として、2016年度夏版L2-Tech水準表の作成においては、L2-Tech水準の更新のみを行う ➤ ただし、2015年度冬版L2-Tech水準表の記載内容において、修正・改善等が必要な場合は、クラス・指標等を変更する 		
#	No.	設備・機器等の名称	指摘事項	対応
1	A-06-001 ~ 006 A-07-001,002	高温水ヒートポンプ ヒートポンプ給湯機	導入段階において、「一過式」「循環式」が決まるため、メーカー側では区別をしていない。	業界団体への確認を行った結果、「一過式」「循環式」というクラスを設けず、熱源方式によるクラス分類とする。
2	A-13-001 A-13-002 A-13-003	プリンタ 複写機 複合機	省エネに資するが、大幅な効率向上が見込めないため、トップを決定することがふさわしくない製品カテゴリーである。	左記を踏まえ、認証対象外とする。
3	B-01-001 ~ 003 B-02-001 B-03-001,002	(建設機械)	国土交通省の「燃費基準達成建設機械認定に関する規程」と同様の表示にしないと誤解や混乱を招く恐れがある。	国土交通省の「燃費基準達成建設機械認定に関する規程」と同一のクラスに変更する(ただし、拡充は行わない)。
4	B-01-001,003 B-02-001 B-03-001	(建設機械)	新規格が発行された。	左記を踏まえ、新規格に準拠したL2-Tech水準を掲載する。

原則としてL2-Tech水準の更新のみを行うが、記載内容において修正・改善等が必要な場合は、クラス・指標等を変更する

L2-Tech水準表の作成における個別対応事項一覧(2/4)

対応方針		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 原則として、2016年度夏版L2-Tech水準表の作成においては、L2-Tech水準の更新のみを行う ➤ ただし、2015年度冬版L2-Tech水準表の記載内容において、修正・改善等が必要な場合は、クラス・指標等を変更する 		
#	No.	設備・機器等の名称	指摘事項	対応
5	D-04-001	家庭用エコキュート	寒冷地仕様の場合、「寒冷地年間給湯保温効率」、または「寒冷地年間給湯保温効率」で評価するのが一般的である。	左記を踏まえ、指標を変更する。
6	D-04-002	多機能ヒートポンプ給湯機	寒冷地仕様に「多缶」の製品は存在しないはずである。	製品調査の結果を踏まえ、「1缶」というクラスに変更する。
7	D-10-001	電気冷蔵庫	2016年3月に新規格が発行された。	左記を踏まえ、新規格に準拠したL2-Tech水準を掲載する。
8	D-11-001	LED照明器具(家庭用)	「電球型」という表記は混乱を招く。また、本クラスに該当する製品の市場は小さく、今後も開発が進まないと見込まれるため、掲載対象から外してほしい。	左記を踏まえ、認証対象外とする。

トップランナー制度と重複しているものは、2016年度夏版では暫定措置として、L2-Tech水準の更新のみを行う。今後、トップランナー制度との整合を図っていく。

L2-Tech水準表の作成における個別対応事項一覧(3/4)

#	No.	設備・機器等の名称	指摘事項	対応
10	A-01-002 ~ 004	パッケージエアコン	トップランナー制度との整合を図るべきである(詳細は後述)。	左記に同意し、今後、トップランナー制度との整合を図っていく(詳細は後述)。
11	A-11-001	業務用冷凍冷蔵庫		
12	A14-001	誘導モータ		
13	A-15-001	変圧器		
14	A-16-001	窓ガラス		
15	A-17-001,002	断熱材		
16	A-19-001	サーバ用電子計算機		
17	C-01-001	乗用車・内燃機関自動車(ガソリン・ディーゼル車)		
18	C-01-002	商用車・重量車・内燃機関自動車(ディーゼル車/天然ガス車)		

トップランナー制度と重複しているものは、2016年度夏版では暫定措置として、L2-Tech水準の更新のみを行う。今後、トップランナー制度との整合を図っていく。

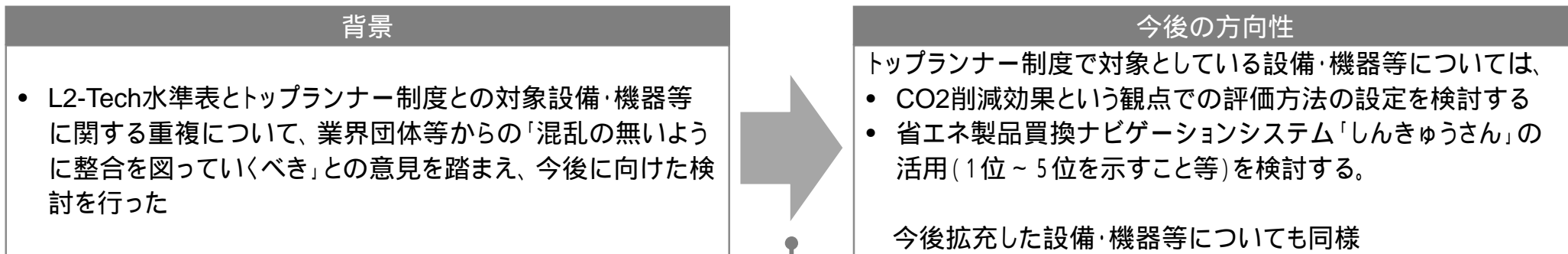
L2-Tech水準表の作成における個別対応事項一覧(4/4)

#	No.	設備・機器等の名称	指摘事項	対応
19	D-01-001	ルームエアコン	トップランナー制度との整合を図るべきである(詳細は後述)。	左記に同意し、今後、トップランナー制度との整合を図っていく(詳細は後述)。
20	D-04-001	家庭用エコキュート		
21	D-06-001	ガス温水機器		
22	D-07-001	石油温水機器		
23	D-10-001	電気冷蔵庫		
24	D-12-001	液晶テレビ		
25	D-14-001	電気便座		
26	D-15-001	窓ガラス(家庭用)		
27	D-16-001,002	断熱材(家庭用)		

2016年冬版以降のL2-Tech水準表の方向性について

今後に向けて検討を進めつつ、2016年度夏版では暫定措置を取って対応する

トップランナー制度との重複設備・機器等に関する対応



数年の内に上記の方向性へ移行するが、現時点では暫定措置を取る

2016年度夏版L2-Tech水準表の作成における暫定措置

